

礼拝のしおり (2022年7月号)

～主の御前に一つにされて～

イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。」

(ヨハネによる福音書 14 章 6 節)

主の聖名を讃美いたします。例年よりもかなり早い梅雨明けとなり、真夏のような暑い日々が続きます。感染症については、新規感染者数がまた著しく増加してきており、本格的な収束は一体いつのことであろうかとの思いがまた湧き上がってきます。

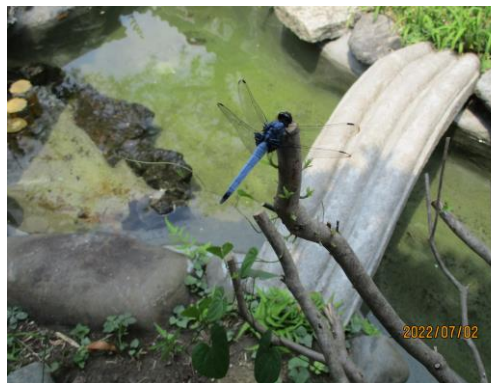
私たちが生きる道に、さまざまな障害と思えるものが立ち塞がっている。かつてとは違う日常があり、またこの世界に厳しい対立状況が生まれ、その解決が難しく思える今日、将来への確かな道を望み見ることができないでいる私たちがいます。

全く話が変わるようですが、先日、他教会の牧師に届けねばならない物があり、自家用車で出かけました。その教会に車で行ったのはもう何年も前のことでありましたので、カーナビ（カーナビゲーション）を頼りにして向かいました。大きな通りを進み、その教会の近くまで来たところで、カーナビの指示に従って、小さな道に入りました。その小道を進んでいき、さらにその道から曲がるように指示された場所まで来て驚きました。カーナビがそこを通っていくように指示する道は、人が一人やっと通れるような、自転車に乗って通るのも難しいような本当に細い道だったのです。自動車が通ることなど全く不可能です。カーナビはこの道の細さを分かっていない。こんなことがあるのかと思いました。東京にあっても恐らく古くから変わっていないと思われる住宅街です。それゆえに一方通行の細い道が入り組んでいる場所でした。最近になって、道が変わったとは考えられません。私の車に装着されているカーナビが古いからか。最新のカーナビであれば、その教会に正しく案内してくれるのか。一方通行の道でしばし立ち往生しながら、心のうちにいろいろな思いが交錯しました。結局、カーナビに頼ってはいは、その教会に辿り着けないと判断し、もう一度大きな通りに出て、どこから入ればよいか、どこで曲がればよいか、自分で考えながらその教会へと向かうことになりました。何とか無事に、教会の門の前に到着し、ほっとしました。

自動車に乗って道を行く時、さまざまな経験をします。遠出をする際、標高の高い場所で、深い霧が発生して、1メートル先も全く見えないような中、車を走らせねばならない経験をしたりします。カーナビに従うにせよ、紙の地図に従うにせよ、あるいは道に迷って誰かに尋ねて教えてもらった指示に従うにせよ、その道が目的地へと続く道であることを信じて進むほかはありません。

しかし、将来へと向かう道、私たちが生きるところで進んでいくべき道については、何に信頼して、道を選び、進んで行けばよいのでしょうか。カーナビの指示に従って、しばし途方に暮れる経験を通して、改めて考えさせられました。

私が神学校に通うようになる前のことです。会社勤めをしておりました時、職場のあるビルの隣りがキリスト教会でした。その教会の外に、「わたしは道であり、真理であり、命である」という御言葉が掲げられていました。悩みつつ過ごしていた時も、その御言葉を目にする度に、慰められ、力づけられて日々を歩んだことを覚えています。私たちが悩み迷う時、ご自身が確かな道であられ、その道を歩んでいくようにと、御言葉による語りかけをもって促してくださる主イエス・キリストがおられます。



再生工事が行われている牧師館の池の傍に早速シオカラトンボのオスが出現。きれいな青色をしています。

◎7月17日～8月14日の主日礼拝の予定

礼拝の予定	聖書・説教題	交読文	讃美歌 21
7月17日(日)	ハバクク書 3章17～19節 マタイによる福音書 28章16～20節 「世の終わりまで共に」	詩編 107編 1～22節	8, 55, 510, 28
7月24日(日)	イザヤ書 66章1～2節 コロサイの信徒への手紙 1章1～8節 「天に蓄えられている希望によって」	詩編 8編	11, 467, 474, 29
7月31日(日)	イザヤ書 55章3節 コロサイの信徒への手紙 1章9～14節 「闇の力から救われて」	詩編 13編	2, 51, 196, 27
8月7日(日)	箴言 8章22～31節 コロサイの信徒への手紙 1章15～20節 「御子キリストをたたえよう」	詩編 19編	6, 482, 81, 26
8月14日(日)	民数記 14章11～19節 コロサイの信徒への手紙 1章21～29節 「キリストの力によって労苦を担い」	詩編 103編	7, 58, 402, 27

☆7月17日～8月14日の主日礼拝、その他について（お読みください）

新型コロナウイルスの感染防止を考慮して、7月17日以降の高井戸教会の主日礼拝等について、以下にご案内いたします。ただし、感染状況が変わり次第、以下と違う対応になる可能性があります。その点をご了承ください。なお、変更する場合は、高井戸教会の週報やホームページでお伝えするようにいたします。

◎主日礼拝について

主日の礼拝については、毎週日曜日、第一礼拝(午前9時30分開始)と第二礼拝(午前11時開始)という2回の礼拝を行う形を継続しています。どうぞ、どなたでも第一礼拝または第二礼拝にご出席ください。ただ、感染に不安のある方、体調の優れない方は無理をなさらず、ご自宅で礼拝をお捧げください。

毎月第1日曜日の第一礼拝ならびに第二礼拝において、聖餐式を行います(安全を期して、市販の聖餐用の個包装のウエハースとぶどう液を用います)。

毎主日の第二礼拝のライブ配信(礼拝の生中継)も続けて行っていますので、ご自宅において動画を視聴しながら礼拝を捧げることができます。ライブ配信を視聴したい方は、高井戸教会までご連絡ください(TEL 03-3333-2465)。

また、礼拝説教の動画のアップロード、『礼拝のしおり』の発行も続けています。どうぞご利用ください。

なお、主日礼拝については、感染の状況を見ながら9月以降いずれかの時点で、1回の礼拝にすることも検討しています。

◎子どもの教会について

幼小科は、7月17日～8月28日は夏休みです。次回は9月4日となります。

中高科は、毎日曜日午前9時30分より高井戸教会2階会議室において行っています。

◎オンライン祈禱会について

Zoomというアプリを用いてのオンライン祈禱会を、毎月1回(第1日曜日の午後5時より)行っています。

今現在、礼拝のライブ配信ならびに説教動画のメールを毎週受け取っておられる方は、開催日の前日までに案内のメールをお送りしますが、それ以外の方で参加を希望される方は、七條牧師までご連絡ください。また、「オンライン祈禱会」と称していますが、高井戸教会にいらしての参加も可能です。互いに距離を保ち、換気をした部屋で、マスクを着けた形で参加していただきます。準備の関係上、教会にいらっしゃる方は事前に七條牧師までご連絡ください。

◎求道者会について

長らく休止しておりました求道者会を、再開しています。従来とは異なり、原則として毎月第4日曜日の第二礼拝後、12時20分～40分(約20分間)、礼拝堂において行います。神代真砂実著『改めて学ぶ、教団信仰告白』(東神大パンフレット)をテキストとして用います。

「神の聖霊を悲しませるな」（エフェソ 4章 25～32節） 牧師 七條真明

エフェソの信徒への手紙は、その最初の部分、第1章から読み始めると、実に壮大なスケールで、神さまの御計画について語られるところから始まっていることに気づかされます。

天地万物の創造、神さまがこの世界を創造なさるその御業に先立って、やがて創造される私たち人間の救いについての御計画というものを、神さまは持っておられたということです。そして、驚かされることは、神のかたちとして創造されながら、神に逆らい、神なしで生きようとする罪に陥った私たち人間を、御子によって救うということも、世の始めに先立つ神さまの御計画の中にあつたということです。その神さまの御計画が、御子がまことの人となって来てくださり、その十字架の血による贖いによって人間の罪の赦しのための御業として実現されたこと、また終わりの日に、天にあるものも地にあるものも、キリストのもとに一つにまとめられる救いの完成の時に向けて、キリストの体である教会によって神がご栄光を現わされること。そのように、世の始めに先立つことから、世の終わりまでの時の中でなされる神さまの御計画というものを、この手紙は、その最初の部分で記すのです。

しかし、世の始めに先立つ神さまの御計画、実に大きなスケールで語り始めたこのエフェソの信徒への手紙は、やがてこの手紙が書き送られたエフェソという町の教会に生きる人たちに、実に具体的なことを語りかけるところへと進んでいくのです。第4章 25節以下で、こう語られます。「だから、偽りを捨て、それぞれ隣人に対して真実を語りなさい。わたしたちは、互いに体の一部なのです。怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません」。

偽りを捨てて、隣人に対して真実を語るべきこと。怒ることがあっても、罪を犯してはならない。その日、日が暮れるまで怒ったままでいてはいけない。そして、この後も、29節には「悪い言葉を一切口にしてはなりません」と語られるように、私たちが日々口にしてる言葉の問題、私たちが日常的に接する隣人、家族をはじめ周囲の人々にどのような言葉を口にしてるか、そのことが問題として取り上げられ、またそれに深く関わることとして、怒ること、憤りということについて語る言葉が記されています。

「怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません」。ここで、怒りの感情、憤りの思いが心のうちに湧き上がること、そのものをいけないこととして語ってはおりません。私たち人間が怒りの感情を抱くこと、憤りの感情が心のうちに湧き上がることもあるだろう、と。しかし、「怒ることがあっても、罪を犯してはならない」と語られます。そして、非常に具体的に、「日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません」と語られるのです。

私は、この御言葉を知ってから、子どもをひどく叱ることがあったりして、怒りの感情をふつふつとたぎらせているまま一日が終わろうとする時、「怒ることがあっても、罪を犯してはなりません」というこの御言葉が、心のうちに語りかけてきて、おかしい言い方もかもしれませんが、「困ったな」と思うようになりました。そこで、自分の中にある怒りの感情と向き合って、どのようにすべきか、自分がその感情を向けた、たとえば子どもに対して、どのようにすべきかを考えるようになりました。そうやって、この聖書の御言葉に救われる、助けられる経験をしばしば与えられてきました。

私たちは、怒りに捕らわれたままで、誰かと一緒に、周囲の人々と共に生きていくということではできない。そのことを、私たちは人生の中で、一度ならず経験するのではないのでしょうか。そういう私たちに、「怒ることがあっても、罪を犯すな。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけない」と御言葉は語りかけ、怒りに捕らわれているところから、私たちを解き放とうとするのです。すぐに27節で語られるように、「悪魔にすきを与えてはならない」のです。怒りの感情に身を任せてはいけない。人と人との関わりを断ち切ってしまうような言葉を口にしてはいけない。私たちが互いに反目し、口が利けなくなり、言葉を交わすことができなくなること、互いの言葉を聞き合い、理解し合うことができなくなること、それこそ悪魔の喜ぶところだからです。「神の聖霊を悲しませてはなりません」と30節で語られます。聖霊が悲しまれることをするな、というのです。聖霊が、神の霊が悲しまれる。

聖霊降臨日。そこで、私たちが心のうちに覚えるべきことは、主イエス・キリストが約束してくださり、来てくださった聖霊のお働きは、この地上にキリスト教会が誕生したという、それこそ神さまの大きな御計画の中にあることであり、しかし、その御計画の中で、今ここに生きる私たち一人ひとりが神さまを信じて生きる。信じて生きていく。その一日一日、人生の日々に深く関わっているということです。何度も何度も聖霊を悲しませながら生きている私たちであるかもしれません。しかし、私たちを悪しき思いから解き放ち、神の御心に従って生かそうとする、もっと確かな神の霊のお働きがあるのです。